



全世界の注目が集まる中、ついに、札幌開催が実現

昨年7月に行われた日本代表対パラグアイ代表戦。約3万9千人の大歓声に揺れた札幌ドーム

FIFAワールドカップ™の数字あれこれ

198カ国
および地域

今大会の地域予選参加国数。国連加盟国数(189カ国および地域)を上回ったのは今大会が初めて。

15万3000人
約**73**億円

札幌ドームで行われる3試合の観客動員数(国土交通省の観客輸送需要予測)と、これに基づく経済波及効果(北海道未来総合研究所の試算)。平成11年の第50回雪まつりの来場者数は約220万人、経済効果は約270億円。経済の活性化が期待されます。

227万人
約**331**億人

前回のフランス大会での総観客動員数とテレビ放映の延べ視聴者数。出場32カ国で全64試合が行われ、その模様を世界196カ国および地域でテレビ放映。

「金色に輝くトロフィーを手にするのは、どの国か?」。「世界中のサッカーファンの注目が集まる中、五月三十一日、韓国のソウルを皮切りに、2002FIFAワールドカップ韓国・日本™が幕を開けます。」

国際サッカー連盟(FIFA)のA)の主催によるこの大会は、四年に一度の「世界最大のサッカーの祭典」。十七回目を迎える今大会は、史上初の二カ国共同開催となります。戦いの舞台となるのは、札幌市を含む韓国と日本のそれぞれ十会場。六月三十日に行われる横浜市での決勝戦を目指し

て、世界の強豪三十二カ国が、全六十四試合の熱き戦いを繰り広げます。

一九三〇年(昭和五年)の第一回ウルグアイ大会では地域予選すらなく、十三カ国だけの参加だったFIFAワールドカップ™。その後は、オリンピックとは違って年齢制限がないこともあり、真のサッカー世界一を決める大会として参加国が拡大してきました。現在は、単一種目のスポーツイベントとしては、世界最大の規模を誇る大会へと成長しています。

札幌ドームを舞台に新たな歴史が生まれます

日本が今大会の開催国に正式決定したのは、平成八年五月。その四年前に開催地として立候補していた札幌市は、積極的な招致活動が実り、平成八年十二月、会場の一つに決定しました。

一方、開催地に立候補したのをきっかけに、多くの道民が待ち望んでいたドーム構想も本格化。最高のプレーを世界水準のスタジアムで。そんな願いが、札幌ドームの建設に弾みをつけたのです。

四万人を超す大観衆を前

はいたてつし コンサドーレ札幌・柱谷哲二監督からのメッセージ



世界最大のスポーツイベントとして位置付けられているFIFAワールドカップ™が、今、アジアの韓国・日本で開催されることは、今後のサッカー界にとっても非常に大きな意味を持つと思います。この大会の開催により、世界各国から今までにない注目が日本に集まります。そして、ここ札幌でも3試合が行われることは非常に楽しみです。コンサドーレ札幌のホームタウン、北海道・札幌を、世界に向けてアピールする絶好のチャンスです。ぜひ、多くの皆さんに楽しんでいただきたいと思います。

日本のプロサッカー「Jリーグ」が開幕してから10年。最近、日本サッカーが世界に挑戦することも当たり前になってきました。自分が日本代表選手として、FIFAワールドカップ™出場を視野に入れ戦っていた現役のころを思うと、もう少し後で生まれていれば良かったと思うこともあります。今は、コンサドーレの監督として、一步一步上を目指して結果を残していきたいと思っています。今後も、コンサドーレ札幌への熱いご声援をお願いいたします。そして、この6月は、世界最大のイベント「FIFAワールドカップ™」を大いに楽しみましょう。

プロフィール
昭和39年京都市生まれ。10歳からサッカーを始め、平成5年には、日本代表主将としてFIFAワールドカップ™米国大会アジア最終予選を経験。平成11年に現役を引退し、今年1月にコンサドーレ札幌の監督に就任

にしたFIFAワールドカップ™の開催。これまでの札幌では不可能だった大イベントが、いよいよ現実のものとなります。

折しも、今年は、冬季オリンピック札幌大会開催から三十周年の節目に当たります。スムーズな大会運営と充実した施設が高い評価を受け、札幌の名を一気に世界へと広げ

たオリンピック。市では、FIFAワールドカップ™にも万全の態勢で臨みます。市民の皆さんも、世界中から訪れるトッププレイヤーとサポーターたちを温かくもてなし、一緒に大会を盛り上げましょう。街が一体となって、二十一世紀最初の大会を成功に導くことが、札幌の新たな歴史の「キックオフ」となるのです。